

## 品川・荏原空襲の碑をつくるプロジェクト できるまで

1945年5月24日品川は焼け野原になりましたが、そのことは区民にあまり知られていません。城南空襲を知ってほしいと証言と体験画展示会を10年続けてきました。

また、品川に残る戦争の足跡をたどる「城南空襲焼け跡歩き」を行いました。その中で、品川の戦争を伝えるものがないことに気づきました。

「非核平和都市宣言」をしている品川区に、品川を焼け野原にした城南空襲を記憶に残すモニュメントを作ってほしいとお願いすることにし、今年の城南空襲を語り継ぐ会で賛同を呼びかけました。賛同者が集まり「品川・荏原空襲の碑をつくるプロジェクト」ができました。

### プロジェクトは何をする？

品川でかつて大きな空襲で焼け野原になった記憶を若い世代に伝えるため「品川・荏原空襲の碑」をつくり、区民に戦争の実相を知らせる。

・品川区に「品川・荏原空襲の碑」設置場を要請する。また、品川の戦争体験を伝えるため品川区平和マップへ品川の戦争遺跡の掲載。城南空襲の展示会開催。デジタル平和館等を要請する。

・区民に城南空襲を知らせる活動をする。①焼失地図チラシの配布。

『品川・荏原戦跡ガイド』普及。

「城南空襲焼け跡歩き」の実施

### 『品川・荏原の戦争遺跡ガイドー城南空襲焼け跡歩き』作成中。7月松完成予定

小学校・中学校で平和を考える教材は出てきています。しかし、地元品川のことを知る教材がありません。先生方は、東京を移動し品川のことを知る機会がありません。体験者から話を聞ける機会はほとんどありません。小学校の先生、中学からは生徒にも読める冊子を皆さんの募金で作って学校に寄贈したい。値上がりし1冊千円を超えそうです。 **みなさんの募金をお願いします**

## 賛同者にあなとも 呼びかけ人メッセージ

住田恵子:弟を父が焼いている姿を思い出すと今でも涙が出る。二度と繰り返さないために記憶を残すものを作って欲しい。

村川浩一:終戦の年、祖母たちは機銃掃射を受けた。品川、荏原を含む城南空襲では、3月10日大空襲よりも大量のナパーム弾が投下されると米側が証言している。もし、憲法が改定されたら間違いなく徴兵制に進むだろう。

米屋陽一:1945(昭和20)年5月24日の空襲から母は逃げ延びた。おなかの中にいた私は11月に生まれた。自宅のあった豊5丁目の民家はすべて焼失し、あたり一面焼け野原の化したという。私は80歳。空襲の事実を後世に伝えるためにどうしても碑を創っていただきたい。

西條明子:朝鮮から引き揚げてきたとき、あと3日の命と医者に見放されたが、運よく生き延びた。二度とこのような体験を作たくない。地元の戦争の記憶を伝えたい。い。

## 3月「空襲の碑建設へ区の協力を要請」

### 総務課

・品川で過去にあったことを次世代に伝えることは重要。が、碑は一つの手段とは思いますが、現状はあまり知られていない、先ずは事実を知らせていくことが必要。

・区としても現時点では碑を建てるという方向にはない。台座の費用も維持管理にもコストがかかる。

・長崎の交流会の時、品川子どもたちは、品川のことを知らない現実が。平和事業として派遣団へ地元の戦争を知る平和ワークショップをすることも考えられる。

・パネル展示なので伝える方法も考えられる。

### プロジェクトから

・知らせるきっかけとして「空襲の碑」は重要ぜひ実現を。

・小島さんの城南空襲体験画を活用してパネル展示を。

・平和マップに品川の戦争遺跡の表示を入れてほしい。

・『品川・荏原の戦争遺跡ガイド』冊子作成し寄贈予定。

さらに区長と交渉を

## 品川・荏原空襲の碑をつくるプロジェクト

呼びかけ人 住田恵子・村川浩一・米屋陽一

連絡先 西條明子 電話 :03-5742-7563

メール:shinagawakusyu@gmail.com

## 品川・荏原空襲の碑をつくることに賛同します。

お名前

ご住所

電話

メールアドレス